

## アルファルファの栽培管理

アルファルファは採草用マメ科牧草として優れた粗飼料特性を持っています。同時に、共生する根粒菌による大気中の窒素固定が行われるため、肥料経済性の面で有利です。加えて、当地域は土壤凍結しない地帯でありアルファルファの栽培適地といわれています。しかし、天北地域の栽培面積を見ると、単播で700ha、混播で3,400ha程度で留まっており、良質粗飼料確保のために栽培面積を増加させたいものです。

## アルファルファ草地の刈取りスケジュール

アルファルファ草地の維持段階で最も重要なことは、刈取りスケジュールにあります。他の牧草と同様に、この牧草は刈取りによって株・根部に貯蔵された養分が地上部の再生のため利用され、一時期、体内の養分濃度が著しく低下します。その後、地上部生育量の増大にともない、再び株・根部に養分が貯えられ、生育ステージは着らい・開花へと進展します。

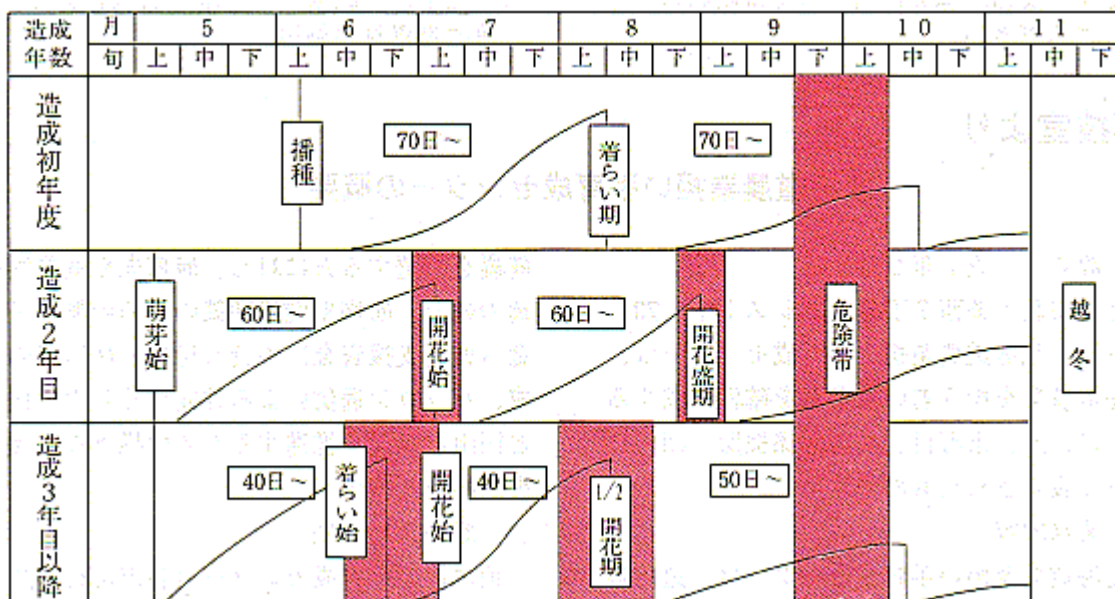
刈取りスケジュールの設定には多くの知見を総合して組み立てる必要がありますが、天北地方の例を示しました。

造成当年は刈取りまでの生育期間を十分に取り、株の充実主体をおきます。ちなみに、6月上旬までの播種で生育が良好な場合70日以上（着らいから開花始め）生育させた8月上旬と「危険帯」後の2回刈取ります。生育が不良な場合は80日以上（開花期）生育させて、「危険帯」以降の刈取りは避けます。

造成2年目は造成当年と同様に株の充実を主眼とした刈取りを基本とします。

造成3年目以降は株の永続性を維持しつつ、適期刈取りにより栄養価の高い粗飼料生産に主眼をおいた刈取りスケジュールにします。

刈取り管理で最も重要なことは、平均気温が5～10℃に降下するまでの生育期間（最終刈取りまで）を50日以上確保し、かつ「危険帯」の刈取りを避けることです。



造成年数に応じたアルファルファの刈取り管理（天北農試：1981年）

# アルファルファ草地の施肥

アルファルファの維持段階における10a当たり年間生草収量は4.0～4.5t程度であり、その時の養分吸収量は他の草種に比べて多く、窒素が30～40kg、リン酸が7～8kg、カリが25～30kg、石灰が15～20kg、苦土が4～5kgです。

窒素施肥は根に共生する根粒菌による空中窒素の固定により供給されるので単播草地では不要ですが、イネ科牧草との混播草地ではアルファルファ混生率や混播される草種に対応した施肥が必要です。

リン酸は吸収量に見合った量を早春と刈取り毎とに分施します。カリは土壌の加里供給力を考慮して10a当たり年間15～20kgをリン酸と同様に分施します。更に、土壌のpH環境は共生する根粒菌の活性化を図る意味で、中和石灰量を追肥します。

窒素以外の施肥管理では土壌診断を実施し、その結果に基づき施肥量を計画します。

## アルファルファ草地の施肥標準（地帯：道北、土壌型：洪積土）（単位：kg／10a）

区分 マメ科率に よる区分	オーチャードグラスとの混播				チモシーとの混播			
	目標 収量	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	目標 収量	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O
1	4,000	0	8	15	4,000	0	8	15
2	～	0	8	15	～	6	8	15
3	4,500	6	8	15	4,500	10	8	15

注) (1) マメ科草による区分 1：アルファルファ率70%以上 2：同率40～70%未満  
3：同率20～40%

(2) オーチャードグラスとの混播草地の場合、年間3回利用とし、その時の施肥配分は均等配分とする。

(3) チモシーとの混播草地の場合は、年間2回利用（1番草6月下旬、2番草8月下旬）とし、その時の施肥は早春重点型とする。

## 導入圃場の土壌環境

アルファルファの生育特性としては耐干性に強いものの、耐寒性ならびに耐湿性に弱い。天北地域は牧草の生育期間中における降水量が少なく、冬期間は雪に覆われるので栽培適地です。なお、導入に当たっては次の点に注意してください。

- 透排水性の改善（暗渠・明渠の整備ならびに心土破碎の施工）
- 既存ならびに埋土種子雑草対策（除草剤の耕起前と播種時との組み合わせ処理）
- 化学性の改善（リン酸、石灰質資材等土壌改良資材の施用）

## 専技室より

### 北海道農業担い子育成センターの概要

- 設立 平成7年9月1日（札幌市北1条西7丁目 プレスト1・7）

（社）北海道農業担い子育成センターは、北海道農業を担う若い農業者を確保育成するために、道、市町村、農業関係機関・団体によって設立されたものです。

- 業務内容

北海道農業担い子育成センターは、道内各市町村の地域担い子育成センターと連携して、就農を希望する方に対し、研修先や就農候補地の紹介、研修や就農準備のための無利子資金（就農支援資金）の貸し付け、住居費の助成、パソコン通信による仲間づくりの支援など円滑な就農を推進するための様々な支援活動を推進します。

- 問い合わせ先

地域担い子育成センター（各市町村の農政課又は産業課等へ）